



地震学を社会に伝える連絡会議

Committee for Seismology Outreach

連絡会議の設立経緯と主な活動

2011年東日本大震災を契機として、日本地震学会は「行動計画2012」を立案し、その中で「社会に対して、“等身大”の地震学の現状を伝えていくべき」等を提言しました。その実現を目的として、2013年度に関連する委員会の連絡委員及びホームページと地震予測・予知担当委員等から構成される「地震学を社会に伝えるワーキンググループ」を設立し、2014年度からは「地震学を社会に伝える連絡会議」として活動を行っています。

最近の主な活動として、特別シンポジウムとオンライン談話会を主催・企画し、日本地震学会モノグラフを発行するとともに、新たなモノグラフの原稿募集を開始しました。

特別シンポジウム・研究集会等の企画・主催・共催など

○昨年度の主な活動(特別シンポジウムなど)

・第4回特別シンポジウム「最新地震科学で備える南海トラフ地震」

(2025年2月22日(土) 13:30 - 16:00、会場: 徳島大学 & Zoomによる配信を予定)

講師: 平松 良浩(金沢大学)・久田 嘉章(工学院大学)・馬場 俊孝(徳島大学)

パネルディスカッション: 「どうだった, どうする南海トラフ地震臨時情報」

司会: 入江 さやか(松本大学)

・「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」への対応

「南海トラフ地震臨時情報への対応計画」に則り, 連絡会議にて情報収集や連絡調整をおこなった。2024年日向灘の地震・南海トラフ巨大地震に関連する論文等の紹介ページの公開, 特別シンポジウムの企画および, モノグラフ第8号の企画検討・原稿募集を開始した。

・「北海道・三陸沖後発地震注意情報」への対応

連絡会議において対応計画について議論し, 地震学会ホームページにて公表した。

○今年度の主な活動(特別シンポジウム・オンライン談話会など)

・第5回特別シンポジウム 兵庫県南部地震30年特別シンポジウム「地震本部設立から30年—地震学の知見がどう「地震の評価」に活かされてきたのか」

(2025年7月5日(土) 13:00 - 17:00、会場: Zoomによる配信)

講師: 佐竹 健治(東大名誉教授)・岩田 知孝(京大名誉教授)・谷岡 勇市郎(北大名誉教授)・藤原 広行(防災科研)・干場 充之(気象研究所)

パネルディスカッション(久家 慶子 会長): 「30年間の知見の深化と今後の展望」

・オンライン談話会: 「2025年ミャンマーの地震」

(2025年5月16日(金) 17:00 - 18:00、会場: Zoomによる配信)

講師: 堤 浩之(同志社大学)

(2025年9月30日(火) 17:00 - 18:00、会場: Zoomによる配信)

講師: 山中 浩明(東京科学大学環境)

・オンライン談話会: 「2025年カムチャツカ半島地震」

(2025年10月11日(土) 10:00 - 11:00、会場: Zoomによる配信)

講師: 佐竹 健治(東大名誉教授)

日本地震学会モノグラフの発行・原稿募集中

第7号 『等身大の地震学』をどう防災に役立ててるのか(2024年4月発行)

<https://www.zisin.jp/publications/pdf/monograph7.pdf>

第8号 『地震学的視点で捉える南海トラフ地震の臨時情報と防災対策のこれから』原稿募集中

投稿締め切り: **2026年1月5日(月)23時59分**



公益社団法人

日本地震学会

The Seismological Society of Japan (SSJ)